日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

2版

様　式　Ｆ－７－２

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	家政学部
	職	講師
	氏名	清原　康介

１．研究種目名　基盤研究(C)（一般）　　２．課題番号　17K09132

３．研究課題名　学校管理下で起こる心臓突然死の予防に向けた市民AEDの普及と効果に関する研究

４．補助事業期間　平成２９年度～令和元年度

５．研究実績の概要

研究最終年度である2019年度は、日本スポーツ振興センター（JSC）の災害共済給付データから、2016年度分の院外心停止情報を取得した。これを総務省消防庁の全国救急蘇生統計と結合し、前年度までに作成したレジストリに追加した。

本レジストリを用いて、児童生徒の心停止症例に対するバイスタンダーによる救命処置実施割合に男女差があるかどうか検証した。2008年4月から2015年12月までに全国の学校構内で発生した小学生・中学生・高校生・高等専門学校生の院外心停止症例232例を抽出し、分析対象とした（男子生徒175例、女子生徒57例）。学校種別では、小学生42例（男子生徒20例、女子生徒22例）、中学生71例（男子生徒54例、女子生徒17例）、高校生／高専生119名（男子生徒101例、女子生徒18例）であった。これらは全て非外傷性の症例であり、現場でバイスタンダーが救命処置を実施するべき対象である。バイスタンダーによって心肺蘇生が実施された割合は、全体では男子生徒が86.3%、女子生徒が84.2%であり、有意な男女差は見られなかった。学校種別で見ても、小学生、中学生、高校生／高専生ともに有意な男女差は見られなかった。一方、バイスタンダーによってAED が使用された割合は、全体では男子生徒が80.6%、女子生徒が63.2%であり、有意な男女差は見られなかった。しかし、学校種別で見てみると、小学生と中学生では有意な男女差は見られなかったが、高校生／高専生において女子生徒は有意にAED が使用されていなかった（調整済オッズ比 0.26, 95%信頼区間 0.08-0.87）。以上のように、学校構内で非外傷性の心停止を発症した女子生徒は、男子生徒と比較して、高校生／高専生の年代においてAED が使用されにくいことが示唆された。

６．キーワード

心停止　AED　学校　小児　性差

７．研究発表

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Matsui Satoshi、Kitamura Tetsuhisa、Kiyohara Kosuke、Sado Junya、Ayusawa Mamoru、Nitta Masahiko、Iwami Taku、Nakata Ken、Kitamura Yuri、Sobue Tomotaka、for the SPIRITS Investigators	４．巻 2
２．論文標題 Sex Disparities in Receipt of Bystander Interventions for Students Who Experienced Cardiac Arrest in Japan	５．発行年 2019年
３．雑誌名 JAMA Network Open	６．最初と最後の頁 e195111～e195111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi:10.1001/jamanetworkopen.2019.5111	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

８．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

９．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１０．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１１．備考

－